

16．マレーシア新政権下における開発と日本の経済協力のあり方に関する調査研究

2003年10月末にマレーシアは22年におよぶ長期のマハティール首相からアブドラ新首相へと政権が交代した。比較的安定したマレーシアの政治経済情勢の下では基本的な政策の継続性が予想されるものの、総選挙後におけるアブドラ新政権がどのような新たな開発政策を導入し、それに伴って、マレーシアの我が国の経済協力はいかなる影響をもたらすか注目される。

本調査では、マハティール政権がもたらした成果と問題点を整理し、アブドラ新政権での方向性を展望している。とりわけ、ポスト・マハティールにおける政治・経済・社会の変化と新潮流およびアジア通貨危機後の東アジアの情勢変化（中国ファクターや FTA）を踏まえて、アブドラ新政権下での対マレーシア経済等協力で留意すべき課題を明らかにした。

主な項目は次のとおりである。

- 1．マレーシアの開発政策
- 2．マハティール時代の開発政策レビュー
- 3．プミプトラ政策の展開
- 4．アブドラ新政権の発足と課題
- 5．日本のマレーシアへの経済協力と方向性